

自由民主党高市政調会長の暴言に抗議し
被災者の前で発言の撤回と謝罪を求める決議

すでに明らかにされている通り、高市政調会長が過日の講演で「悲惨な爆発事故を起こした東京電力福島第一原発事故を含め、事故によって死亡者が出ている状況でもない。そうすると安全性を確保しながら活用するしかない」と発言したことに対し、被災者と県民から強い怒りと抗議の声が上がり、発言の撤回と謝罪をしたが当然である。

過日の発言には重大な問題が二つある。一つは、原発事故関連死が相次いでいる現実を知らな過ぎることである。6月18日現在避難生活で亡くなった災害関連死は、福島県内で1415人、すでに浪江町では273人が関連死と認定され、先が見えず自殺に追いこまれた町民もいる。また爆発直後は最悪の放射性物質の放出と爆発の危険から、津波被害者の救助活動が出来ず、助かった命も救えなかったという悲しい現実があったということである。二つは、「原発事故で死者はいない」という誤った認識に立ち、「そうすると、(原発を)活用するしかない」と原発の再稼働に結び付けた発言をしていることである。

爆発した東京電力福島第一原発の現実はいまだ事故収束の見通しが無いばかりか、生業も地域のコミュニティも壊され、家族がバラバラに暮らすなど、全町避難を余儀なくされている我々町民は、言葉に言い表せない苦痛と被害を受け続けており、原発の再稼働など被災者と県民の心を逆なでするものであり、決して容認できるものではない。

自由民主党高市政調会長に対する町民の怒りの核心は、政権党の政調会長という立場にありながら『福島を見ていない暴言であり、撤回で済む問題でない』ということである。

よって政権与党の政調会長というその職責の重さを認識され、改めて県民と被災者の前で明確な発言の撤回と謝罪を求めるものである。

以上決議する。

平成25年6月21日

福島県双葉郡浪江町議会

【提出先】

自由民主党総裁 安倍 晋三 様
自由民主党政調会長 高市 早苗 様